

令和 6 年度第 3 回岡崎市地域包括支援センター・地域密着型
サービス運営協議会議事録

1 日 時

令和 7 年 3 月 17 日（月）午後 2 時～午後 4 時

2 場 所

岡崎市福祉会館 201 号室

3 出席委員

柏原正尚委員、鈴木正博委員、小澤竜三委員、鈴木基広委員、竹本達司委員、茂刈稔委員、小野鋼二委員、奥村直子委員、子安由美子委員、檀広実委員

以上 10 名

4 欠席委員

なし

5 事 務 局

長 寿 課：中根課長、山本副課長

介護保険課：野々山課長、神尾副課長、渡邊事業所指定係係長、藤井主査、杉浦主事

ふくし相談課：齋藤次長、寺西副課長、内藤地域支えあい係係長

6 議 事【非公開】

(1) 地域密着型サービス事業所の指定について

7 報 告【公開】

(1) 地域包括支援センターの運営について

(2) 「施設整備計画の進捗」及び「地域密着型サービス事業所の指定状況」について

8 議事録（要旨）

－議事(1)について－【非公開】

－報告(1)について－【公開】

報告(1)について事務局より説明

柏原会長

岡崎市では 11 ページの基準で毎年度偏りがないように確認
していて、偏りがあった場合にも特定の地域では、かなりサー
ビスに限りがあるので、理由書を提出いただいています。額
田地区は地域柄あり、何とかサービスが生まれるように市や
社協もみんなでアイデアを出していかないと、ほかの地域で
も発生するかもしれないので関連としてご意見があれば。中
には初任者研修はハードルが高いので、簡単な研修を市や社

協で募集して定着を目指したり、グループを作って、サービスの準備段階を作るなどが全国的に行われていて、家事支援に近いものでも生まれてくればと思います。住民だけでは難しいと思うので支援する施設などが必要だと思います。

小野委員 中山間地が広く合併前に匹敵する面積があるので、お助けいただけるような形で市の事業がやってもらえるといいと思いますが、なかなか厳しいところもあると思うので、支援できるところをお願いできればと思います。

柏原会長 今の全体の基準では少ないかもしれませんが、市独自で検討できることや他の参入しやすい状況の作成など検討できればと思います。知恵を出し合ってやっていけるとところで会合を開くなどこういった場で、アイデアを出し合えればと思います。

事務局 委員が言われたように物理的に事業所が距離的に難しいところもあります。公正中立性については改正してしまして、委員の皆様もご意見で頑張っているところが制約を受けるのはどうかとご意見があったので見直しを行ったものになります。額田地区については厳しい状況が続いています。総合事業や少しでも補完する地域づくりを進めていければと思います。

柏原会長 この地区はシルバーさんに頼むのも難しいですかね。

小野委員 いろいろな地域づくりの中で送迎サービスはやっていますが、介護が必要な方への支援が難しく、皆様に助けていただければと思います。

柏原会長 助け合いの仕組みづくりが行われていると思うのですが、こういった資料には上がってこないですが、この会議では、大丈夫か確認してもらえればと思います。基準の数字を上げる下げるのは無しではないと思うので、1年間何かあればご指摘いただければと思いますが、人口は減る一方で、新たな参入は難しいのでしょうか。

事務局 人口は全市的に減少しており、高齢化も進んでいます。額田は40%の高齢化率で、いまでは額田地域以外の協力を得ながら行っていますが、全体的に高齢化が進むと事業者の手も足りなくなり、独自の配車や移動販売などを活用しながら、地域が主となるように包括が協力し、それに市も協力していきたいと思います。

鈴木（正）委員 額田の里に入所する方はどれくらいが額田の人ですか。

事務局 把握していないので次回報告します。

鈴木（正）委員 ほぼ100%ではないかと思います。自分で生活できなければ入所する流れになっているのではないかと思います。入所者の特徴が他とは違うのではないかと思います。

事務局 情報提供です。額田地区で事業者の資源が少ないので住民の助け合いによるサービスをモデル事業として R7 から試験的に立ち上げて相互の支援活動に対して補助金支給の体制を作ったと聞いています。

小野委員 合併して、地域で起こっていることとして、総代や学区福祉委員の委員として、役員が3年に1度回ってくるなど地域コミュニティでこれまでやれたことができなくなった地区で先行している状況で不安定で心配な状況が続いていきますので、気を配っていただいて、状況についてご理解をお願いします。

柏原会長 情報収集し、社協のネットワークだけでなく行政としても工夫があれば検討してもらえればと思います。仕組みがあっても人材がいないとどうにもならないので、環境作りと人の育成も連動していかないとと思います。

公正中立性の基準について、報告ですので、状況について理解いただければと思います。

－報告(2)について－【公開】

報告(2)について事務局より説明

小野委員 既設の施設では、レッドゾーン、イエローゾーンに該当するところがあると思いますので、すでに該当している施設に対しては、垂直避難など、洪水への対応について確認をいただければと思います。

事務局 3年に1回は運営指導に入りますので、指導担当部署に確認するよう伝えます。

柏原会長 施設の場所がイエローゾーンに該当していなくても、その周辺がイエローゾーンという地区もあると思うので、周辺に逃げられるかの確認もできるといいと思います。

檀委員 市役所として、体制整備についてお考えがあれば教えてほしいです。

事務局 福祉部に様々計画がありますが、地域全体をどうしていくかは地域福祉計画で考えていて来年度アンケートを実施して再来年に改訂作業に入っていきます。BCP 自体は事業所は作成していると思いますが、実際の災害時に入所者を避難させられるかの実効性についてが重要になると思います。一事業所での対応は大変かと思うので地域 BCP として考えていかなければと思っています。

柏原会長 先ほど事務局から「災害に対する安全性を確保するため、建物用地は災害レッドゾーン及び災害イエローゾーンを含まないこと」という条件は変更せず、今年度と同様の内容での公募を実施したいと考えている旨の報告がありましたが、この

点について、この会としては問題ないということによろしい
でしょうか。（異議なし）

そのうえで、地域 BCP は今後進めていくということで、ど
なたが主体となるのは決まっているのでしょうか。

事務局

拠点としては、市内の地域福祉センターなどがありますので
そこを拠点にして、行ければと思っていますが、なかなか進
んでおらず協議を始めているところになります。

柏原会長

避難所を行政で指定されているところに避難するのが BCP で
考えられているともっと近いところで避難場所を確保しな
いと逃げられない地域もできると思います。福祉避難所の開設
にも時間がかかるので、頑張ってくださいと思います。

柏原会長

以上で終了とさせていただきます。